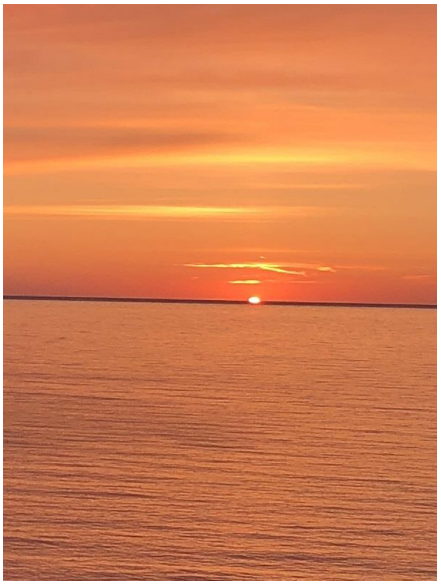
ＧＷ　北海道・東北　スキートリップ

記　Ｔ野

2019年4月26日（夜）～5月6日
メンバー　：　Ｉ崎・Ｔ野・Ａ原・Ｔ山・

今年のＧＷは何と10連休、私とタメ年の浩宮天皇のおかげだ。こんなチャンスはまたとない。ということで、ここでは詳しいことは書かないが、あんなことやこんなことをして万難を排し北海道の山スキーに行けることになった。遠足を待つ子供のように、暑寒別・浜益・雄冬・大雪・オプタテ・美瑛などの北の大地の名峰に想いを馳せる平均年齢還暦過ぎの男女4人春物語！！では報告です。

4/26（夜）～4/27　　移動日



今回、10日間の休みを得て、「暇はあるが金がない。」という身分に久しぶりになった。であれば、「できるだけ安く！！」をモットーに、4/26夜、舘林集合、Ｉ崎車で出発。夜の東北道を仮眠なしでひたすら走る。努力の甲斐あって青森に予定より早く着いたので駅前の朝市で入山祝いを兼ねて海鮮丼を食す。値段の割には・・・？でも、こういう勢いは大切だ。

青函フェリーで移動中の4時間は貴重な仮眠タイム。ただ、何故かなかなか眠れない。下車時に「俺、全然眠れなかった」とメンバーに伝えたら「いやいや、爆睡してましたよ！！」と云われた。どうやら全然眠れない夢を見ていたようだ。

それにしても北海道は遠い。年に何回か出張で北海道に来るときは、飛行機でブィーンとひとっ飛びなのでまるで隣町に行くような手軽さだが、今回、函館でフェリーを降りた時、まるで遠い異国にたどり着いたような感じがした。

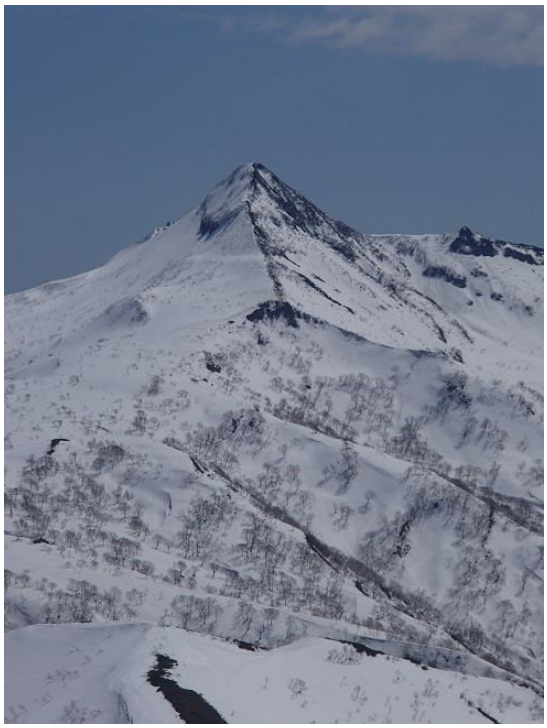
■写真上　　あいろーど厚田から望む日本海に沈む夕日

さて、まだまだドライブは続く、鏡のように穏やかな内浦湾沿いを走り、残雪の中山峠を越え、大都市札幌をかすめ、日本海に沈む見事な夕日に間に合う頃に、漸く道の駅石狩「あいろーど厚田」に到着。道内は高速は一切使わずに下道を来た。本日はここ泊まり、いよいよ明日から本番だ。

4/28　　浜益岳～雄冬岳周遊

朝、車で登れるところまで林道を走り、標高345m付近まで入ることができた。結構な人数が登る準備をしている。マイナーな山だと思っていたが、どうやら地元では結構人気の山のようだ。準備をして6:32出発。最初は板を担ぐが10分程で雪が繋がり、シール歩行が可能になる。緩やかに登っていくと辺りは本州では珍しい白樺林、さすが北海道！！エキゾチックだ。さらに登ると、背後に紺碧の石狩湾が広がり、対岸に羊蹄山の特徴ある姿が・・・。という事はあれがニセコであっちが積丹半島の山々・・・とパズルのピースがはまるように山名が特定できる。

■写真上　紺碧の石狩湾の対岸には積丹半島の山やニセコ・羊蹄が・・・絶景だ！！



積丹岳や羊蹄山もいつか登ってみたいし、ニセコオートルートもぜひトレースしてみたい。初めての山って本当にワクワクする。

白樺林を抜けると早くも森林限界、これから登る浜益岳や雄冬岳が雄大な姿を現す。浜益御殿まで登れば反対側の景色も開け、日本海のはるか遠方に白い山が浮かぶ。Ａ原さんが「もしかして利尻？」というが300㎞以上離れているので「まさか！！」と否定する。が、「じゃーあれなに？」と考えてみても利尻岳意外に考えられない。「すげー、利尻が見えちゃった！！」そう、今日の透明度は半端ない。手塩も大雪も見える山は全てが見渡せる。ホント、ラッキーだ！！

浜益御殿からはアップダウンのある尾根を浜益岳を目指す。こちらより一回り大きい暑寒別岳の大きな姿も間近に見え、いよいよ最後の急斜面というところで予想以上に鋭利な峻峰が現れた．マイナー12名山でも有名な群別岳だ。ここから見える数多ある山の中でもダントツに格好が良い。登ってみたい山だ。Ｉ崎さんとＴ山さんは以前に山スキーで行っているそうだ。羨ましい。最後に急斜面をグイッとひと登りで今回最初のピーク、浜益岳に到着！！海がひと際近く眼下に望め、初めて見る山々が連なり素晴らしい山頂だ。なるほど、この時期人気があるのも頷ける。

ただ、この山の魅力はそれだけではない。東に落ちる暑寒別川支流の源頭の斜面が素晴らしい！！この高度差約450ｍの急斜面はかなり魅力的だ。私は雄冬岳に行くよりここを滑ってみたくなりメンバーに提案してみたが、あえなく却下。残念だが諦めることにする。

さあ、雄冬岳を目指そう！！往路はアップダウンが多く効率が悪いので、尾根の北側の沢に一度滑り降り、トラバース気味に雄冬岳方面に接近、820ｍ付近から浜益御殿北側にある881ｍ付近に緩やかに登り返すルートを採ることにする。ここは、メローな斜面だがほとんどノートレース。尾根の北西斜面とあって雪も快適な面ツルザラメ、皆、歓声を上げながら滑る。この辺りは急に人臭さが消え、静寂に包まれて、山の主が現れても不思議のない雰囲気だ。今回、初めてヒグマを意識した。

さて、初日にしては結構長丁場だが頑張って雄冬岳に向かう。途中、一カ所急な痩せ尾根を突破しなければならないところがあり、技術的な核心部だ。Ｔ野とＩ崎は右側の急斜面を巻き気味に慎重に突破、Ａ原とＴ山はツボ足になってこの痩せ尾根を登る。この難所を過ぎれば滑れば快適な急斜面をあと一登りで雄冬岳に立つことができた。浜益岳と雄冬岳は結構離れていて、来し方を振り返り充実感に浸る。

■写真上　雪の砂漠のような稜線漫歩。
■写真中　浜益岳に向かう途中で雄冬岳を望む。
■写真下　ダントツの存在感、群別岳！！

ここからの滑降も快適だ。あっという間に浜益御殿手前の登り返しまで滑り、最後の登りをこなし、浜益御殿からは往路を滑る。最初は迷うことなき尾根だが樹林帯まで降りると尾根が広がりルーファイに気を遣う。下手をすると雪のない薮に引き込まれるので要注意だ。（チョコチョコあるピンクのテープも積雪期のものなので、雪の少ない残雪期にはあてにし過ぎると薮に掴まることがある。）我々も少し薮に掴まりそうになったが何とか途中で気づき、最小限の藪漕ぎで済んだ。最後は朝と比べてずいぶん雪が減った印象の林道を降りていくとデポした車が見えてきて、初日としては長丁場の1日がようやく終わりを告げた。

初日から標高差2400m、距離で20km、行動時間約10時間を越える長丁場は非常に疲れたが、景色、雰囲気ともに素晴らしく、北の大地1日目の浜益～雄冬の周遊は素晴らしいルートで大満足でした。

■写真上左　浜益岳山頂にて、バックは群別岳！！
■写真上右　雄冬岳の登りから浜益岳を望む。
■写真下　　雄冬岳の滑降！！

岩尾温泉で久し振りに風呂に浸かって、今日1日、結構疲れたので食事は外食にして、留萌市内のラーメン屋でエビ味噌ラーメンを食す。店の名前は忘れてしまったが、ここのエビ味噌ラーメンは旨かった。今日のベース、暑寒荘には日が落ちてから到着。個室が使えて快適な小屋だが、カメムシと友達になれない人は、この時期にこの小屋で一晩寝ると寒くても外で寝たくなるかもしれない。

■コースタイム
車デポ地（345m）（6:32）～（11:18）浜益岳（11:34）～（13:46）雄冬岳（14:04）～（15:00）浜益御殿（15:17）～（16:26）車デポ地

4/29　　暑寒別岳

朝、4:00起床、5:25出発、今日も天気が良い。経験者のＩ崎さんとＴ山さんによれば、昨日の長丁場と比べれば今日は半日行動というので気が楽だ。最初からシール歩行が可能で林道を登っていき、途中からショートカットして尾根に上がる。天気は良いが今日は風が強い。穏やかで美しい白樺（ダケカンバかもしれないが・・・）の疎林を登っていく。メジャールートなので番号の入った標識があちこちの木に付いているが、番号の意味が今ひとつ理解できずルートが正しいことだけがわかる。

■写真左　白樺（ダケカンバ？）の疎林を登る。

暑寒別岳は尾根に上がればオープンスロープが多く、まさに山全体がゲレンデ、どこでも滑れそうで山スキーには最適な山だ。適度に斜面に変化があり急緩合わせ持ち、帰りの滑降が今から楽しみだ。しかし、1350m付近から風が一層強まり、油断していると倒されそで安心してのんびり休める場所がない。やがて、傾斜が増し、大斜面の登りとなる。昨日、浜益岳まで前後して登った札幌山の会のメンバーが、この大斜面をテント泊まりの重装備だが安定した力強い滑りで降りてくるのが確認できた。声をかけ、様子を聞きたかったがだいぶ離れた場所を滑っていたのでそれはかなわなかった。しかし、浜益岳から群別岳を越え暑寒別までのスキー縦走に、彼らもきっと満足したに違いないことは容易に想像できた。老若混合パーティーだったがチームワークの良さそうな人達だった。

急斜面を登れば山頂だと思っていたが山頂は奥まった場所にあり、ほとんど傾斜のない斜面を歩いていくと意外なことに風が弱まり快適な稜線漫歩となる。やがて反対側の景色が開け、昨日登った浜益～雄冬の稜線が意外に立派に望め、群別も幾分優しい雰囲気になったが相変わらずその目立つ山容を誇示している。そして何よりこの稜線の東側に落ちる新信砂川の源頭が何といっても素晴らしい！！標高差約500mの一枚バーンは時間に余裕があって元気ならぜひ滑ってみたい斜面だ。ここを滑って登り返して下山しても昨日よりは楽なので、ホント後ろ髪引けたが今回はこの後、大雪まで移動しなければならないので残念ながら滑ることはかなわなかった。

そして、10:30暑寒別岳山頂！！増毛山塊が手に取るようにわかる。我々が良く行く頚城の山々を少し小さくしたような雰囲気だが、もう少し近くにあればぜひ通って様々な尾根や谷を開拓したくなるような山域だ。登山道がほとんどない山域ということも原始的で未知な要素もあり大きな魅力だ。

■写真上　　左、浜益・右、雄冬を望む
■写真中上　暑寒別岳山頂にて､バックは浜益岳。
■写真中下　最高に気持ちの良い箸別川源頭！！
■写真下　　最高の面ツルザラメ！！

さて、景色を満喫したらお楽しみの滑降だ。稜線沿いは風が強いと思い、右側の箸別川源頭の大斜面を滑降する。標高差約400mの大滑降！！滑りごろの大斜面は昨日同様、今回も快適な雪質に恵

まれ、発情したサルのように雄たけびを上げながら滑っていく。シュプールがしっかり残り、なぜかこの斜面に入る人は少ないのでほとんどノートレースに近い状態で温存されていてイヤーホント楽しかった！！

■写真左　まるでヘリスキー！！

登り返しを覚悟すれば、このまましばらく滑って行っても良いのだが、傾斜も緩くなってきたので沢が狭くなる手前で往路の尾根に向かってトラバース気味に滑ると、登り返しなしで930m付近で往路と合流、ナイスルーファイでした。合流後も傾斜は緩いが板は気持ち良く滑り、樹林帯に入ると少し薮っぽいところもあったが気になるほどではなく、無事林道に合流。あとは自動運転で12:10、無事、暑寒荘に到着。

暑寒別岳は山スキーヤーにとって、いろいろなバリエーションルートを開拓したくなる、まさに山スキーの山でした。返す返すも新信砂川の源頭は滑ってみたいルートで、今後滑る機会はもうないと思うが来訪の際、気に留めておいて損のないルートだと思いました。

さあ、明日も天気は良さそう、我々は増毛を離れ大雪に向かう。旭川で温泉に浸かり体を清め、東川町にある道の駅「道草館」に本日の宿を求めた。ここは町中にあって一見、泊まるにはどうかと思ったが実際、トイレも綺麗で、近くに居酒屋や食堂もあって非常に快適に過ごすことができ、結局2泊お世話になった。

■コースタイム
暑寒荘（5:25）～（10:30）暑寒別岳（11:00）～（12:10）暑寒荘

4/30　　大雪・安足間岳～旭岳周遊

平成最後の今日、いよいよカムイミンタラ（神々が遊ぶ庭）と呼ばれる大雪山に足を踏み入れる。旭岳ロープウエイの始発が9時なので朝はゆっくりだ。それでも始発のロープウエイに乗りたかったので8時頃にはロープウエイ駅に着いていた。目論見通り、朝一番のロープウエイで登って9:10に歩き始める。さすがに大雪は広大だ。雰囲気は立山の室堂と非常によく似ている。旭岳の西側を巻くように黙々と歩き最初の目的地、安足間岳を目指す。広い雪原を延々歩く。林道歩きよりは景色も良く楽しいが取り付きまでが長い。裾合平を横断し、沢を2つ越えると漸く尾根に取り付けそうだ。最初少しルートを間違え大塚に向かって直登してしまい、尾根に出てみるとどうも地形が想像と違い、地図を確認してみると大塚の直下にいることがわかる。

■写真上　裾合平より旭岳を望む。
■写真下　右、大塚・左、旭岳

わずかなルート修正ですみ、さらに尾根を登っていくと、北鎮岳や鋸岳等も姿を現し、標高差も斜度も手ごろで滑っ

ても楽しそうな斜面がいくつか見える。景色を楽しみながらなおも登れば12:55、安足間岳（あんたろまだけ）に到着！！西側の愛山渓方面の景色も開け、こちらにも魅力的な斜面がたくさんある。機会があれば愛山渓温泉ベースでこの辺りを滑っても楽しいと思う。（今年は道路が崩壊して愛山渓には車で入れないらしい。）

さて、第一ステージ、安足間岳の南斜面の滑降だ。今回はどこでも雪質に恵まれ、ここでももったいないような素晴らしい斜面を滑降することができた。標高差約450m、気持ち良くかッ飛ぶことができ、昨日、一昨日に続いて最高の気分！！今回のトリップはホント雪に恵まれている。

ほとんど一気にこの天国を楽しんだ後は、旭岳に取り付く。ゆっくりだが確実に登っていくが、徐々に雪面が硬くなり、クトーを付けても不安な硬さになってきた。気温が下がり、風も強くなり時間も15時半を過ぎますます雪は硬くなりそうな気配だ。旭岳まで、あともう少し（標高差で50m位）だが、ここは無理は禁物，残念だがここ2240m地点で引き返すことにする。

この斜面の滑降は、雪が硬く、先に滑った人のシュプールでガリガリで板に引っ掛かり快適とは程遠い滑降だった。ただただ標高を落とすような滑降を慎重に続け、標高が下がってくると漸く楽しむ余裕が出てくるが、そのころにはトラバース主体の滑降となり、ここの滑降は今一つだった。それでもスキーの下りは早い。ものの30分もかからずロープウエイトップまで滑り、ここからはゲレンデ（といっても、シュプールの多い山スキーみたいなところだが・・・）を滑る。傾斜があり意外に滑りごたえがある。きっとパウダーの頃は手軽に楽しめるパウダースポットとしてにぎわうことだろう。時間も遅いのでほとんど休まず滑り、16:50に車をデポしたロープウエイ乗り場に着いた。

温泉は勇駒別温泉の湯元湧駒荘（￥800）で名湯をゆっくり堪能。

■写真上　安足間岳山頂にて。
■写真中上　広大な安足間岳南斜面、超快適！！
■写真中下　滑り降りた安足間岳南斜面をバックに。
■写真下　どこも滑れる山スキー天国！！

今回、反省というわけではないが北斜面の旭岳を後にしたのが敗因だと思う。先に登山道から旭岳に登り、最初に北斜面を滑り、その後、安足間岳に登った方が遅い時間に滑るのが南斜面になるので得策だったような気がする。

しかし、そのおかげで安足間南面では、我々以外に1パーティーしかおらず、斜面もほとんどノー

トレース、最高の滑降が楽しめたので、これも良しとしよう。次回があるとすれば、ぜひ、愛山渓温泉からのルートを考えてみたい。ロープウエイからだとどうしても出発が遅くなり、時間的な制約もあり、アプローチも単調な雪原歩きが長く、それがもったいない気がした。また、体力があまりなくなった時に、同じロープウエイを利用するにしても、中岳温泉にテントを張ってベースにして、標高差400～450mの快適な斜面がゴロゴロあるこの辺りで遊ぶのも悪くないとも思った。それなら多少年をとっても実現可能なプランだ。ただ、厳冬期となれば話は別、このロープウエイの機動力を最大限に生かして最上級のパウダーを体が動かなくなるまで滑るっていうのはすごく魅力的だ。これは近いうちに厳冬期にぜひ実現したいプランだ。

さて、5/1～3は天気予報だと悪天になりそうだ。という事で今晩は少し贅沢をして中祝いの席を設けることにする。昨晩お世話になった道の駅に再び戻り、ねぐらを確保して昨日気になっていた居酒屋「利尻」を覗いてみたがあいにく満員。なんでも結構な人気店のようだ。という事で近くにある焼き肉屋に入り、カルビー・タン・ラム・サガリなど、思う存分肉祭りを楽しんだ。

■コースタイム
ロープウエイ終点（9:10）～（11:20）大塚直下（11:28）～（12:55）安足間岳（13:10）～（13:35）旭岳取付き～（15:30）旭岳2240m地点（15:40）～（16:30）ロープウエイ乗り場

5/1～2　　移動日

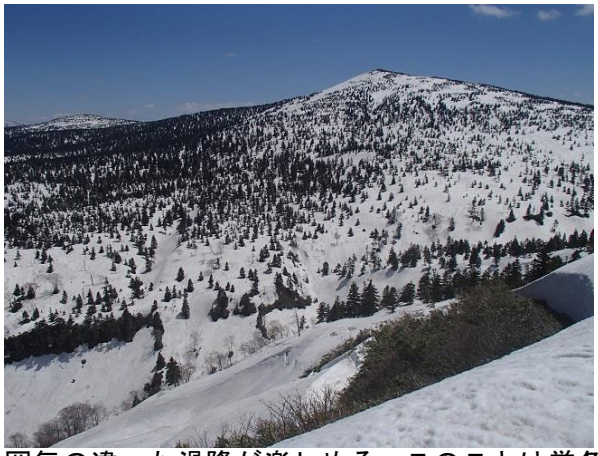
目覚めると思った通りどんよりと曇り空だ。それでも雨が落ちてこないので「あわよくば」と思い旭岳南面の滑降を考えてロープウエイ乗り場まで足を運ぶ。しかし、上は視界がなく、今にも降り出しそうな天気でモチベーションは全く上がらず、3日間一生懸命動いたのでメンバー満場一致で休養日とする。ただ、今後の予報に問題があり、北海道は5/1～3まで悪天候が続き、5/4～5は平地は晴れマークだが山の天気を見てみるとオプタテ・美瑛といった山々は登山不適のCランク。一方、東北の山は5/3～5にかけて高気圧に恵まれ問題なく晴天が続くようだ。メンバーで話し合い、結構悩んだ結果、安全策の東北の山に軍配が上がり、森吉と鳥海の新山北面に照準を絞り転進することにした。フェリーの予約とキャンセル、宿の確保とキャンセルなどの調整は車の中でネットを最大限利用して行い、フェリーも無事確保し、宿は田沢湖高原の行きつけの温泉宿「タツコ荘」をゲットできた。地図は札幌のジュンク堂で手に入れ、札幌市街にある寿司屋（もちろん廻るやつだけど・・・）で贅沢に大人食い（¥2700）を決行。北の大地の海の幸を十分堪能し、あとは未練を残すことなく下道をひた走る。20:30発の青函フェリーで北海道を離れ再び本州に、5/1は青森駅近くの公園で泊まった。
5/2は朝一番でコインランドリーに行き、今までの汚れ物をすべて洗濯。青森駅前で行列している朝ラー人気店に並び、青森名物煮干しラーメンを堪能。一路、下道で田沢湖を目指す。明るいうちにタツコ荘に着き、かけ流しの温泉にどっぷりつかり後半戦に備える。

5/3　森吉山～一ノ腰周遊

阿仁スキー場のゴンドラは8:45が始発なので6時過ぎに宿を出て、いつものようにコンビニで朝食を採り、スキー場に向かう。辺りは新緑が美しくもう山麓は春だ。このあたりが北海道の山とは少し違っていて地域によって季節の移ろいを感じる。　ゴンドラ下部は雪はなく滑って降りてくることは無理なようだ。

■写真左　昨日の悪天でできたプチ樹氷。

ゴンドラを上がれば雪はたっぷりあり、9:10スター



ト。主稜線まではほんのひと登り。針葉樹と残雪模様の美しい森吉山が眼前に広がる。森吉山は12月に一度訪れたがその時はホワイトアウトで全容がわからなかったので初めて見たいなものだ。今回は遮るもののない大展望が広がり快適に歩みを進める。主稜線はアップダウンがあるので一度シールを外して標高差50mほど滑り、山頂を目指す。昨日の悪天候の名残か、針葉樹の梢には氷が張り付きプチ樹氷も楽しめ緩やかの登りで10:25山頂着。鳥海山方面が雲で見えなかったが八甲田・岩木・白神・焼石・栗駒など東北の名峰が一望できた。

さあ、どこを滑ろうか？視界が効くのでどこでも滑り放題だ。まずは一番魅力的な北斜面を落とす。途中から一の腰方面に行きたいので西寄りにルートを採って標高差約250mほど滑る。最初は大斜面、途中から緩急変化のある斜面で満足満足。第2ステージを求めて一の腰に登り返す。

■写真上　森吉山山頂にて。
■写真中　森吉山北面、ここも良かった！！
■写真下　針葉樹と残雪が美しい森吉山。

一の腰の西側斜面は今までと雰囲気ががらりと変わり東北らしい快適なブナ林が広がっている。この疎林を標高差約250m滑降。私の大好きな鍋倉山の西の沢に雰囲気が似ていて、この辺り一帯、厳冬期に多少天気が悪くても快適なパウダーが楽しめそうで新たな発見ができた。この斜面も美味しくいただき森吉神社に登り返す。最後にわずか5mの強烈な藪漕ぎがあったが無事登り返し、そのまま1308mピークまでシールで登れば後はゴンドラ終点までひと滑り。軽めだが快適なツアーが楽しめた1日だった。

森吉山は山頂付近は大斜面と針葉樹林、一方、一の腰の西側の沢筋には広大なブナの疎林が広がり雰囲気の違った滑降が楽しめる。このことは厳冬期でも、天気が良ければ山頂付近、悪ければ一の腰周辺のブナ林狙いとルートが縦横無尽に考えられ、ポテンシャルの高い山域だということが分かった。今後のツアーに大いに参考になり、そういう意味でも今日は有意義なツアーだった。もちろん滑降も申し分なくGW後半の滑り出しとしては上々だった。

そして、タツコ荘に戻り再び温泉三昧、幸せだなー。さあ、明日は後半のメイン鳥海北面だ！！このツアー最後にふさわしいビックルートに夢を馳せる。

5/4～5　　中島台～鳥海山新山～北面滑降～中島台周遊

5/4

今日は905m台地まで行けばよいのでフル装備行動とは言っても比較的楽な行程だ。今回恒例のように当たり前のごとく下道で南下、タツコ荘から中島台を目指す。途中、由利本荘のすき家で朝カレーしてスタミナをつけ、10:35、中島台をスタート。あがりこ大王に続く遊歩道を辿る。雪国の早春の花がすでに咲き始めていて水芭蕉・キクサキイチゲ・アズマイチゲなどが目を楽しませてくれ、こ

の辺りはもうブナの新緑も始まっている。あがりこ大王からは道がなく、雪もまだ出てこないのでしばらくは道なき道を適当に登っていく。ただ20分ほどで雪が繋がり、ここからはシール歩行が可能になり重荷が少し軽減される。それにしても、この辺りのブナ林は素晴らしいの一語に尽きる。無造作に曲がりくねったあがりこ大王の子供や孫、ひ孫のようなブナ林、ほんと癒される！！傾斜もほとんどないので荷物が軽ければ快適な散歩道だ（我々はフル装備なのでそうでもなかったが・・・）

■写真上左　新緑のあがりこ大王。
■写真上右　下部は美しいブナ林。
■写真下左　快適な905m台地！！
■写真下右　前祝じゃー！！

やがて傾斜が少し増し、尾根が狭くなれば今日の泊り場の905m台地はもうすぐだ。ここは水も取れて風も防げ、木の間越しに鳥海山も望め快適なベースだ。新山から北面に落ちる急な雪壁が2本、明日滑る予定のルートが見える。メンバー皆、若干の緊張と期待、それに不安を覚えながら眺め、雪テーブルを作って前祝の宴会！！明日が楽しみだ。

5/5

さあ、有終の美を飾ろう！！5:00スタート、すぐに新山北面が全貌を現す。中島台ルートは誰に聞いても最上級の賛辞が飛び交うが来てみて理由が良く分かった！！確かにこのスケール、景観はスゴイ！！歩けど歩けどなかなか景色が変わらない。主に谷の右岸の尾根を使って高度を稼いでいく。高度が上がるにつれ新山北面の傾斜が寝てきて成功を確信する。それにしても最終日にして私の体調は絶好調。長い登りも苦にならずガンガン登れ思わず楽しくなってくる。1600m付近から始まる大きな斜面を200mほど登ると、いつの間にか大きく成長した新山が目前だ。ここから千蛇谷沿いに新山を大きく南側を回り込むように登るようだ。一見、遠回りのように見えるが先人の記録に従ってルートを追うことにする。

■写真上　出発じゃー！！
■写真下　新山北面の斜面が一望！！

やがて新山と七高山の間にある大物忌神社、ここから一登りすれば念願の新山に到着する。まずは北面のドロップ地点を確認、問題ないこと

を確認して山頂からの絶景に酔う。遠く岩木・八甲田も望め、今まで見えなかった月山・朝日・飯豊も姿を現す。また、岩手・秋田駒・焼石・栗駒等々、ここから見える山は全てが見える！！風もなく最高の登頂日和だ。

ここで、往路を戻りたいというＴ山さんと別れ、Ｔ野・Ｉ崎・Ａ原の3名で北面滑降を開始する。最初だけ斜面が狭く、傾斜も急で下に岩がゴロゴロあるので要注意、慎重に滑るが一段降りればあとは大きな問題がない。下から見て左側の斜面はそのまま降りていけるが落石が散らばり、斜面も狭く感じたのでより広い右側の斜面を目指すが、途中で雪が切れていて、板を担いでハイマツに掴まりながら急斜面を50mほど下降、再度板を履いて滑降するが、ここが急斜面で雪も硬く、板を履くのに苦労する。ここでの板履きが今回最大の核心部だった。ただ、ここから1500m付近までの一枚バーンはこのルートの白眉で、日本でも有数のスケールと標高差の大斜面に自由自在にシュプールを描く。標高が下がり、程よく緩んだ雪質はしっかりとシュプールが刻め、思った以上のスピードが出て、思わず恐くなって自分にブレーキをかける、そんな繰り返しでガンガン落ちていった。気持よすぎて調子に乗って滑っていたらトラバース地点を通り過ぎそうになりあわてて滑降を終了し、左へトラバース開始。大きな沢を2つ横切り、なおも左にトラバース気味に滑っていくとやがて往路に合流し、あとは往路を辿ってベースへ。905mベースに着くと、ノーマルルートで降りてきたＴ山さんがすでに着いていて後片付けをしていてくれた。テントを撤収し準備を整え下山開始。

降りるにつれ見事なブナ林となり、昨日に登って来たばかりなのにさらに春が進んでいて、眩いばかりにブナの新緑が降り注ぎ、そのシャワーを浴びながらの下山となる。最後の最後までスキーで粘り、板を脱げば10分程であがりこ大王に到着、あとは整備された遊歩道の木道を歩けば車をデポした中島台に到着、充実したツアーを終えた。

さてさて、本ツアー最後の楽しみ、打ち上げだ！！実は北海道から東北に移動するときに湯野浜温泉に、料理自慢とかけ流しの温泉民宿（しらはま屋という宿）を予約しておいたのだ。ツアーを終えた充実感と温泉、それに美味しい海の料理！！幸せな気分で余韻に浸った。

■写真上　このスケールと景色！！噂以上の場所だった。
■写真中上　新山山頂から北面を見下ろす。
■写真中下　新山山頂にて。
■写真下　新山北面の滑降！！

鳥海山の北面は、これ以上ない天候に恵まれ素晴らしい滑降が楽しめました。ただ、ノーマルルートも負けず劣らず素晴らしいルートなので、条件によってルートをチョイスできるということで懐の深さを実感できるルートだと思いました。そういう意味で、鳥海山中島台ルートは私にとって初トライでしたが、噂に違わず、今迄に行った鳥海山のどのルートより雄大で山らしく、鳥海山の素晴らしさを再認識するルートでした。ここは機会があればぜひ再訪してみたいと思います。でもその前に次回は残雪期の万助小屋ルートに行ってみたいと思います。鳥海山、ホント奥が深いですね！！

■写真上　どこまでも続く新山北面の快適斜面！！

■写真下　あの右の雪壁を滑ったんだ、感動！！

■コースタイム

5/4

中島台駐車場（10:35）～（13:30）905m台地

5/5

905m台地（5:00）～（10:10）新山（10:35）～（12:30）905m台地（12:45）～（13:50）中島台駐車場

5/6　　帰京

ＧＷ10日間、フルに楽しませてくれたせめてもの感謝の証として、家族にお土産を数カ所で購入しながら順調に帰京。10日間のうち山に入ったのが6日間、いづれも天気と雪質に恵まれ素晴らしい時間を楽しめました。10日間一緒に行動を共にしたメンバーにもホント感謝感謝です。アリガトウ！！

最後に、往路の館林～青森と帰路の村上～月夜野以外、全て下道で走破し、毎日宴を催し、温泉宿にも3泊、寿司も食べたし焼き肉パーティーも行って、10日間で締めて￥70,000で収まった。今回、コストパフォーマンスで考えても、実にリーズナブル。これはリーダーでほとんど一人で運転と会計を引き受けてくれたＩ崎さんのおかげです。改めて御礼申し上げます。

■写真左　最終日にご褒美！！美味しい食事とかけ流しの温泉、それに10日ぶりのお布団！！